

赤松円心

大鳥圭介の歴史が息づく

赤松地区

佐用・鳥取方面

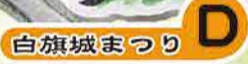
河野原円心駅
このへらはえんしんえき



A 宝林寺



B 赤松の郷 昆虫文化館



D 白旗城まつり

円心と



赤松円心は、白旗城において、新田義貞の軍勢6万を、わずか2千の兵力で50日以上釘付けにしたと言われています。それに因んだ「白旗城まつり」は、毎年11月23日に開催されます。

ここでの目玉は何と言っても、手づくり(紙製)のよろいかぶとを着用した武者行列。最近では姫路市や備前市をはじめ、遠くは鳥取県安来市などから総勢100名を数える参加があり、上郡町を代表する催しとして、毎年たくさんの人出で賑わいます。また当日は、地元の人たちによる模擬店も多数出店。歴史ハイキングなども並行して行われます。



アクセス

- 宝林寺** ...智頭線河野原円心駅から徒歩5分程度
- 昆虫文化館** ...智頭線河野原円心駅から徒歩10分程度。
- ふるさと館** ...JR上郡駅から6~7km。駅前の「観光案内所」(0791-52-6959)では、無料で自転車の貸出しも行っていきます。
- 法雲寺** ...智頭線苔縄駅から徒歩5分程度



1337年に、赤松円心が創建したと伝えられています。「円心堂」には、武者姿の円心像が安置され、境内には樹齢700年以上と言われる天然記念物のビャクシン杉が。また、最近建てられた座禅堂の建築美に目を奪われます。(写真はご住職の大塚月潭さん)



E 法雲寺

B 赤松の郷昆虫文化館



貴重な昆虫標本とともに、播磨地方を中心に絵画、玩具など人の暮らしに取り入れられた虫の世界が楽しめます。その他にも、懐かしい広告や昔の虫かご、戦時中に軍隊が使用した蚊取り線香など珍しいものがいっぱい。

そして、館内にはなぜか花嫁人形やマネキンが。この摩訶不思議な世界の案内人は、館長の相坂耕作さん(写真左上)です。
<http://webtaro.com/~akamatsunosato/>

智頭急行線



法雲寺



円心と A 宝林寺

上郡町の歴史は古く、足利尊氏の室町幕府創設に大きな役割を果たした赤松円心が、武勇をほしうまにしました。宝林寺は1355年、円心の子、則祐によって建立されたと言われています。境内奥にある白い壁の建物が「円心館」で、館内には県指定文化財の赤松三尊像が収められています。(円心と則祐に、二人が帰依した臨濟宗の高僧雪村夕梅、また則祐の娘千種姫の小さな像も)。訪れた時は、向田雅昭住職(写真左)のご案内で見学させていただきました。

圭介両親の墓



このあたりには昔、旭日鉱山が操業し、映画館や銭湯などもあって、活気を呈したことが(昭和61年閉山)。現在は、事務所と火薬庫、精錬所の後がわずかに名残りをとどめている。

坂本梅園



いきいき交流ふるさと館

C 圭介と いきいき交流ふるさと館

大鳥圭介は、戊辰戦争で官軍に敗れながら、類まれな才能を明治政府にも認められ、近代日本の礎を築きました。その生家跡に建てられた資料館で、部材も一部使用。ここは圭介塾々長の猪尾守之氏(左下写真)を筆頭に、圭介に取りつかれた人たちの根城です。圭介子供時代の里山の雰囲気そのままに、ユーモアあふれる人たちの魅力も手伝って、一度ならず二度、三度と訪れる人が増えています。(右下の古写真は圭介里帰りの時のもの。)

お問い合わせは、役場産業振興課 (TEL0791-52-1116)まで。



商工会青年部の圭介勉強会



まちづくり塾では、圭介の生涯を4コマ漫画で紹介した「圭介読本~かえで~」も作成。これから圭介塾の教科書としても活躍します。



F 厚紙による甲冑づくり



赤松地区では、円心にちなんで、地元の人たちが甲冑の製作を行っています。厚紙(右下写真)と古着などを使用。何か月もかかってすべて手作りします。種類も武将から足軽、子供用までバラエティに富み、どれも目をみはる出来栄。これらは旧赤松幼稚園園舎(写真)を活用して製作され、「白旗城まつり」や「商工まつり」などでお披露目されます。

このマップはデフォルメしています。

旭日鉱山跡



勉学の道を志した少年圭介は、この峠道を歩いて「閑谷学校」をめぐらした。



上郡駅へ

